

女性のライフサイクルにおける役割変化について

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・臨床福祉クラスター
東山 泉

女性は、子育て、夫婦関係、老親の介護と家庭内でのさまざまな役割に影響されやすい。これまで、女性の社会的な役割、母親役割、介護者としての役割、仕事における役割、夫婦関係についての研究がされてきた。本研究ではこれらの役割が年齢とともにどのように変化するのか、子供あり、既婚の女性に焦点をあてて調査した。

中高年の女性を対象に母親役割、妻役割、それ以外の個人についての役割変化についてインタビューを実施した。時期を末子が誕生してから、末子が小学生、中学生、高校生、高校を卒業してから現在までの5つにわけてそれぞれの期間にそれぞれの役割がどのようだったかインタビューを行った。また、それぞれの役割がどの程度の割合を占めていたのか期間ごとに図で示した。結果、母親役割が年齢とともに低下して個人が上昇するという結果となった。母親役割の低下は子供の状態によって低下する時期が異なった。妻役割は、様々な要因が影響していて被験者によって違っていた。義親の介護や夫の仕事からの影響、自分の活動からの影響が大きな要因であった。個人についてはだいたいの被験者において上昇した。母親役割の低下した分が個人に入ってくるようだ。しかし、個人に対する関わり方は被験者によって異なった。母親役割や妻役割を重要視する人にとっては二の次となっていて、母親役割、妻役割を大切にしながらそれに合わせて自分のしたいことをしている。逆に個人を大切に人は子供に手のかかるうちはそれに合わせて母親役割をして、それがなくなると自分の活動に力をいれている。

3つの役割を総合的にみて、ひとつの役割が他の役割に比べて飛躍的に高いことがなく、どの役割も女性にとって重要な役割だということがいえる。時期によって高い、低いという違いはみられるものの、どの役割もだいたい全体の時期をとおして同じ程度であり、ライフサイクルを通しての役割間のバランスが重要と考えられた。